

彫刻家 上床 利秋

心に残るモニュメント

本来ならば、地元の石材店で高級石材にコンプレッサーでパソコンの文字を彫ってもらい、それをモニュメントとすることは予算的な都合もあり、普通により得る話。

たまたま今回はそれが義妹からの縁だったこともあり、古着等にパッチワークで全く新しい命を吹き込むように彫刻家の仕事をしてみた。

ブロンズレリーフは鹿児島県内の水道管接続部の廃材を溶かして自分のアトリエで鑄造してみた。そのテーマは依頼者である同窓会の皆様の共通の思い出になっている銀杏の写真を発想の原点とした。

石板は以前お礼としていただいた安山岩を使った。その石は全く大型機械で加工されていない魅力があったので凸凹のままを水磨きした。そこに、書道のお手本「書林」の文字を担当する書道の先生に下書きして頂いた文字を私がルーターで彫り込んだ。心のこもった味が出たはずだ。

鹿児島医療看護学校の歴史は南九州中央病院附属看護学校と霧島病院付属看護学校の両校が統合されて存続してきたことを聴き、特に依頼されたわけではなかったが、白い鳩を内之浦産白御影石で二羽丸彫りしてみた。私からの発案として。

台座の石は紫尾山道路工事で出土してきた丸い石を真っ二つに切断した面を磨いて利用した。かわいい小舟のような形が温かみを感じさせてくれるようだ。

総重量は1500kg。設置工事は安全性を考えて霧島市の石材店に依頼し、ユニック車で楽しく完成を迎えることが出来たと思う。

単なる小さなモニュメント。しかしこの彫刻の仕事が作家が独自で成就させられるアトリエは世界を探しても他にいないはずだと自負している。

2024年9月

